

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立四日市南高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		高い志と豊かな人間性を育てることを基本に、一人ひとりの可能性を引き出し、自己実現と進路実現を図る。
(2)	育みたい児童生徒像	○明確な目的意識を持ち、主体的・協働的に学び、学ぶ楽しさを感じながら互いに高めあっている姿。 ○ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、特別活動などに積極的に取り組み、これらを通じて豊かな感性、人権意識、他者への思いやり、忍耐力、コミュニケーション力、向上心などを身に付け、社会に貢献する意思と力を得ている姿。
	ありたい教職員像	○高い志と豊かな人間性を備えた生徒たちの自己実現・進路実現を図るため、関心や意欲を引き出し、知識・技能を伝え、思考力・判断力・表現力を高める教育活動を展開するとともに、自らも学び続ける教職員。 ○地域及び家庭との連携を積極的に図り、社会からの信頼を築く努力をし続ける教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; ○すべての教育活動を通じての充実した学校生活と自己実現・進路実現。</p> <p>&lt;保護者&gt; ○すべての教育活動を通じての子どもの充実した学校生活と自己実現・進路実現。</p> <p>&lt;地域&gt; ○学校と地域が連携した諸活動への生徒の積極的な参加による地域の活性化と、それらを通じた地域の未来のリーダーの育成。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<b>連携する相手からの要望・期待</b>	<b>連携する相手への要望・期待</b>
		<p>&lt;保護者&gt; ○子どもの様子や進路情報等の積極的な発信。</p> <p>&lt;中学校&gt; ○卒業生の様子、本校の教育活動、高校入試情報等の積極的な発信。</p> <p>&lt;地域&gt; ○学校と地域が連携した諸活動への積極的な参加。施設開放。</p>	<p>&lt;保護者&gt; ○本校教育活動への理解と協力。基本的な生活習慣の確立と家庭内学習環境の整備。</p> <p>&lt;中学校&gt; ○本校への期待と中学生の進路希望にかかる動向の共有。本校受検生の基礎学力の定着と基本的な生活習慣の確立。特に配慮を要する生徒にかかる情報共有。</p> <p>&lt;地域&gt; ○本校教育活動への理解と協力、本校に不足する教育力の提供、本校の教育活動にかかる情報共有。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		外部教育力を利用した「探究的・体験的活動」は、子どもたちの大きな成長につながっている。子どもたちの安全で安心な学校生活には、施設設備の改善が不可欠である。キャリア教育のさらなる充実、ICT機器の導入に伴う新学習指導要領や新大学入試制度への対応のための授業改善、教育の質を落とさず教員の働き方改革を進められたい。	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○各教科の学習、学校行事、部活動、探究的・体験的学習等、本校の教育活動全般にわたり真面目に取り組む生徒が多い。社会の変化や高大接続改革を踏まえ、知識・技能と思考力・判断力・表現力のさらなる伸長を図る必要がある。</p> <p>○生徒指導、ホームルーム活動、人権教育、主権者教育、命を大切にする教育等を通じ、社会的スキルを有し、自他を大切に、互いを勇気づけられる生徒の育成を進めている。</p> <p>○人間関係上の課題、心身の成長にかかる課題等から特に配慮が必要な生徒に対して、教職員間および関係機関等との連携・協働のもと対応を進めている。さらに十分に、組織的な対応を進める必要がある。</p>	

学校 運営等	<p>○主体的・対話的で深い学びや地域との連携を核にした探究的・体験的学習の深化を進めてきた。これらをさらに広く深く展開していく必要がある。</p> <p>○地域の少子化の影響で近い将来生徒募集定数が減じられる可能性があり、教員定数の減少が予測される。教員の働き方改革、コンプライアンスの確保も急務かつ重要である。このため、業務の精選と効率化、教職員間および関係者との連携・協働の強化、危機管理にかかる仕組と意識の充実を進める必要がある。</p>
-----------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○高い志と豊かな人間性の育成</p> <p>探究的・体験的学習等を通じ思考力・判断力・表現力のさらなる伸長を図るとともに、各教科の学習等により将来を切り拓くために必要かつ重要な知識・技能等を身につけられるよう指導の充実を進め、高い志を育む。これとあわせて、学校行事、生徒指導、ホームルーム活動、人権教育、主権者教育、命を大切にする教育、部活動等を通じて豊かな人間性を育み、知・徳・体の調和がとれた、これからの社会を生き抜く力を持った生徒の育成に取り組む。</p>
学校運営等	<p>○教育改革への対応</p> <p>新たな大学入試制度、新しい学習指導要領が目指すもの等に的確に対応し、授業力・指導力等の向上に取り組むとともに、探究的・体験的学習に積極的に参加する生徒の増加と内容の深化を図る</p> <p>○組織力の向上</p> <p>「生徒第一」「全体最適」の視点から安全安心な学習環境を構築するとともに、保護者や地域との連携により開かれた学校づくりを推進する。あわせて、教職員間および関係者との連携・協働の強化、コンプライアンス確保の仕組と意識の充実を進めつつ、一層効果的かつ効率的な組織運営を進めていく。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
新型コロナウイルス感染症防止	1) 世界的な流行を見せている新型コロナウイルスの感染防止を最優先にした校務運営を進める	<p>○「県立学校における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」に基づく適切な対応。</p> <p>○「新しい生活スタイル」を身に付けた学校生活を構築。</p>	◎
キャリア教育の充実と生徒ひとり一人の自己実現・進路実現	<p>1) 「学習のてびき」等を用い3年間の進路ストーリーを示すとともに、発達段階に合わせ進路講話・進路講演会を効果的に実施して、高度な学問への夢を引き出す。</p> <p>2) 個人面談の充実、部活動・特別活動・大学オープンキャンパスへの積極的な参加、課外授業への受講奨励などにより、一人ひとりが進路希望を実現し、社会貢献できるよう、学力の向上を図る。</p> <p>【活動指標】各学年年6回の個人面談の実施、定期的な進路説明会・講演会の実施。</p> <p>【成果指標】生徒の高校生活全般への満足度90%</p> <p>3) 外部機関との連携および総合的な学習(探究)の時間等を活用した探究的・体験的学習を通じて、思考力・判断力・表現力等をより広く深い身につけられるよう取り組む。</p> <p>【活動指標】学校外における各種学習会研修会、行事への参加</p> <p>【成果指標】参加生徒人数200名</p>	<p>【高校生活全般の満足度】</p> <p>とても満足 31.4%</p> <p>ほぼ満足 58.7%</p> <p>【活動参加生徒数】</p> <p>のべ153名</p> <p>○「キャリア教育プログラム」に基づき、組織的にキャリア教育を実施。</p> <p>○各学年で個人面談の実施。オンライン等も活用した説明会・講演会等の実施。</p> <p>○「学びのSTEAM化推進事業」(県指定)</p>	◎ ※

	4) 校外での教育的活動の状況を一人ひとりのポートフォリオ(活動記録集約ファイル)に記録し、大学入試改革に備える。	○生徒一人ひとりが活動記録(キャリアパスポート)を作成。	
学習指導の充実	1)「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業により、将来にわたって通用する学力の向上を図る。 2) 高大接続改革に伴う思考力・判断力・表現力を問う形式の設問に対応できる力を養う。 3)「予習→授業→復習」の学習サイクルに基づいた学校(授業)中心の学習習慣が定着するよう取り組む。 4) 生徒による授業等の評価の実施 【活動指標】生徒による授業等の評価の実施 【成果指標】生徒の授業への理解満足度90%	【授業理解満足度】 よくわかる 15.8% だいたいわかる 70.6%  ○生徒の学力や自己肯定感等をより高めるため、生徒による授業評価に基づく授業改善をすすめた。	◎  ※
豊かな人間性と高い志の育成	1) 自他の命の大切さについて様々な機会に触れ、いじめのない安全安心な学校生活を営むことができるよう、命を大切に教育にかかると指導計画・学校いじめ防止基本方針等に基づき取り組む。また、マナーや挨拶・服装指導を通じて、社会人としての品性を身につけられるよう取り組む。 【活動指標】各学期のいじめに関するアンケートの実施 2)「NOLTY スコラ(手帳)」を積極的に活用することで、学習時間と部活動等を軸とする生活リズムの確立と自己管理能力の育成を図る。 3) 学年・ホームルーム経営、学校行事への取組、部活動、人権教育、保健指導、教育相談、特別支援教育、読書指導等を通じて、自己肯定感の涵養、豊かな社会性の育成を進める。また、特に大きな課題、重い課題、個別の課題を抱えた生徒に対しては、必要に応じて専門機関等と連携しながら、適切に支援する。	【安心して学習できている生徒割合】 よくできる 45.7% だいたいできる 49.6%  ○「命を大切に教育年間指導計画」等に基づき、すべての教育活動を通じた取組や、校内各分掌や郊外の専門機関との有機的な連携により適切な支援を行った。	◎  ※
<b>改善課題</b>			
きめ細かい学習指導、進路指導、生活指導等により、落ち着いた学習環境が保たれている。また、「新しい学力」を育成するための外部教育力も活用した「探究的・体験的活動」や授業改善により、一定の成果が現れている。 今後は、新学習指導要領の実施を見据え、カリキュラムマネジメントのより一層の推進、ICT機器の効果的な活用等により、さらなる生徒の高い志、学力向上を目指す必要がある。			

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織力の向上	1) あらゆる教育活動に関し、教職員間の積極的な情報共有を進め、職員が一丸となって取り組むことのできる体制をつくるとともに、保護者や地域との連携により開かれた学校づくりを推進する。あわせて、教職員間および地域とのより適切な協働を進めつつ、一層効果的かつ効率的な組織運営を進めていく。 【活動指標】職員会議を中心に、各委員会・各学年会・各分掌会での積極的な情報共有 【成果指標】職員の情報共有に対する満足度85%	【職員の情報共有に対する満足度】80%  ○会議等を活用した情報共有以外にも、緊急時等にはICTを活用した情報提供を行った。	◎  ※

専門性の向上	<p>1) カウンセリング・特別支援教育等に焦点をあてた現職教育を実施し、教職員のこれらにかかる専門性の向上を図る。</p> <p>2) 新学習指導要領への対応を意識したカリキュラムマネジメントを進め、授業と評価の改善を図るとともに、新しい教育課程の検討を進める。</p> <p>3) 高大接続、大学入試制度改革等の情報を積極的に集め、また現職教育や校外研修に積極的に参加し、学習指導・進路指導・生徒指導等にかかる専門性の向上を図る。</p> <p>【活動指標】各種現職教育の実施、校外研修への参加</p> <p>【成果指標】職員の専門性向上への満足度80%</p>	<p>【職員の専門性向上への満足度】84%</p> <p>○現職教育（人権・コンプライアンス・特別支援・情報・校長通信等）や各種校外研修（授業改善、教育相談、進路情報交換、入試分析等）への積極的な参加。</p>	◎ ※
働きやすい職場環境づくり、コンプライアンスの確保	<p>1) チームで仕事を分け合い、より適切に連携・協働しつつ働く仕組みや運営方法を整える。</p> <p>2) 教員の働き方改革にかかる国の指針を遵守する。</p> <p>【活動指標】月に一度の定時退校日、週に一度の部活動休養日の実施、放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合95%</p> <p>【成果指標】時間外労働時間4時間/月削減、休暇取得日数1日/年増加、「指針」の示す時間外在校等時間の上限（①月45時間以内 ②年間360時間以内③特別の事情のある場合は6ヶ月以内で月100時間未満で年間720時間以内（連続する月の平均80時間以内））を上回る教員0人</p> <p>3) コンプライアンスがより確実に確保されるよう、定期的な同チェック等による危機管理意識の強化を図る。</p>	<p>時間外労働時間 △15.2時間/月</p> <p>休暇取得 △0.7日</p> <p>上限を超える職員 1人 (令和3年1月現在)</p> <p>○毎職員会議や校長便り、グループウェアでのアンケートの実施等を通じて、コンプライアンス意識の向上を目指した取組をすすめた。</p>	◎ ※
情報発信	<p>1) 地域に対して、積極的に情報発信・情報提供を行う。その手段の一つとして、学校Webページをより適切に運用する。</p>	<p>学校 Web ページ更新回数 100 回以上</p>	◎ ※

### 改善課題

業務改善や総勤務時間縮減への教職員の意識は高いが、生徒への進路指導、新型コロナウイルス感染防止対策、部活動等様々な指導に費やす時間は長く、総勤務時間の縮減が円滑に進まない状況となっている。

学校の諸活動や業務のスリム化をすすめるとともに、近い将来予想される募集定員・教職員定数の縮小に向け、教職員のリソースを必要な個所に集中させる必要がある。

## 5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	<p>○キャリア教育の取組の成果がでている。今後も多様性を重視し様々な事に挑戦できる学びの取組の継続をされたい。</p> <p>○新しい取組も必要であるが、今まで継続してきた校風の醸成も重要である。公立高校として生徒の総合的な「学力」を高めてほしい。</p> <p>○子どもたちの安全で安心した学校生活に向けて、教育相談体制の充実や施設設備の改善をすすめてほしい。</p>
--------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>○新型コロナウイルス感染症対策と学校教育活動の両立を図ることが急務である。</p> <p>○カリキュラムマネジメントにより、各教科の学習、学校行事、部活動、探究的・体験的学習等、本校の教育活動全般にわたり、知識・技能と思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ力等のさらなる伸長を図る。</p>
学校運営についての改善策	<p>○地域との連携を核にした探究的・体験的学習について、さらに学校全体での取組にしていくよう検討を進める。</p> <p>○教員の働き方改革、コンプライアンスの確保とともに、学校施設・設備の改善や関係諸機関との連携・協働により、生徒の安全安心を確保する。</p>